



# ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。



▲比婆山山開き 道後山山開き▶

登山やキャンプ、スキーなどで年間およそ40万人が訪れる西城町の比婆山・道後山で山開きが開催され、本格的な夏山シーズンが到来しました。

5月30日、竜王山山頂近くの駐車場で行われた比

## 山々に夏の訪れ 比婆山・道後山山開き

REPORT ④

比婆山山開きでは、夏山登山の安全祈願に続いて、田植踊りや西城川太鼓の演奏、神楽の奉納が行われました。また、地元の自治振興区「神話の里熊野村づくり推進協議会」が、比婆牛のバーベキューや地元で養殖したゴギの塩焼きなどを販売し、登山客の舌を魅了しました。

6月20日には、道後山山開きつつじ祭りが開催され、夏山シーズンの無事を祈る神事が行われました。なだらかな山のすそ野を赤く染める満開の山つつじ、薄紅色のタニウツギが登山客の目を楽しませました。

REPORT ⑤

## どろんこ田植えで世代間交流 総領保育所が田植え行事

総領保育所の園児27人が5月17日、総領自治振興区の役員の方や下領家老人クラブのメンバーと一緒に田植えを行いました。

園児たちは、半ズボンに着替え裸足になると、老人クラブのおじいちゃんおばあちゃんから苗の植え方を教わり、その後、手をつないでもらいながら田んぼへ入りました。「ヌルヌルする!」「底の方は冷たい」など泥の感触を楽しみながら、「苗を2~3本持ってギュッと田んぼの中に入れるんよ」とお手本を見せてもらい、みんなで並んで植えていきました。

園児たちは、一筋植えるたびに周りを見渡し、田んぼに緑の帯が少しずつ広がっていく様子に満足げな表情を浮かべながら、1時間近くかけて植えました。一面すっかり緑になった田んぼを見ながら、おじい

ちゃんやおばあちゃんと「秋には稲刈りをして、おむすびを作って収穫祭をしようね」と笑顔で話していました。



▲どろんこになって頑張りました

## 「道の駅」のカリスマ社長に学ぶ 地域づくり未来塾講演会

REPORT ⑥



▲秋田弁でユーモアたっぷりに話す小川社長

これは、中国横断自動車道尾道松江線の開通をにらみ、高野地域に「道の駅」の整備計画があることから、同地域の活性化を

「道の駅」の成功例を学び、地域活性化を考える「地域づくり未来塾講演会」が5月25日、高野町の上高公民館で開催されました。

考える市民委員会「高野地域づくり未来塾」が企画。高野地域と気象条件が似ている秋田県横手市の「道の駅十文字」から小川健吉社長を講師に招き、地域活性化と「道の駅」の役割について学びました。

小川社長は「物を売ることよりも、お客さんにどう喜んでもらえるかを考えることが大事。雪の多い地域でも生鮮野菜を栽培・販売する方法はあるので、ぜひ取り組んでほしい」と熱く語りました。

主催した瀬尾二六塾長は「約170人と多くの皆さんに参加していただき、うれしかった。日本一の「道の駅」、そして誇りの持てる「地域」を目指し、みんなで力を合わせていきたい」と話していました。

## 平成21年度夢街道ルネサンスに認定 東城まちなみ本町筋「街道 東城路」

REPORT ①

東城本町筋のまちなみ約600mが、「街道 東城路」として平成21年度、「夢街道ルネサンス認定地区」に選ばれました。5月27日には、広島市内で開催された「ちゅうごく街道交流会議」(事務局:国土交通省中国整備局)で認定証と認定銘板の授与が行われました。

夢街道ルネサンスは、歴史や文化を今に伝える中国

地方の街道を「夢街道ルネサンス認定地区」として認定し、中国地方の豊かな歴史・文化・自然を活かし、地域が主体となって個性ある地域づくりや連携・交流を進め、地域の活性化を図ろうとするものです。

昔の風情を残した城下町として守り活かしたいと、賑わいのある町づくりを目指す住民で構成する「東城まちなみ保存振興会」が中心となって、「東城まちなみぶらり散歩ギャラリー」などのイベントに取り組み、地域住民と行政が一体となって地域の活性化を進めてきたことが評価されました。

「街道 東城路」は、三次市の「いにしへの里 三次物怪」で「ご街道」、府中市上下町の「銀山街道上下宿」などに次いで広島県内で7番目の認定となり、中国地方では今回の4地区の新規認定を合わせた合計29地区が認定されています。銘板は「東城まちなみ交流施設えびす」に設置しています。



▲認定証と認定銘板を手に記念撮影



▲夢街道認定証

REPORT ②

## 吾妻山に夏の訪れを告げる 第40回吾妻山山開き

吾妻山池の原で6月6日、第40回吾妻山山開きが行われました。比婆山に眠るイザナミノミコトへ夏山登山の安全を祈願する神事式の後、比和牛供養田植えの植拍子が原曲となった県民謡「ばい流し」や比和音頭などが披露されました。今年は、上杉千恵美さんの歌謡ショーが行われ、大きな声援と拍手が澄みきった空にこだましました。

また、特産品などの各種バザーコーナーなども設けられ、多くの方が地元の味を楽しみ、登山やハイキングなども満喫しました。



県民謡「ばい流し」▶

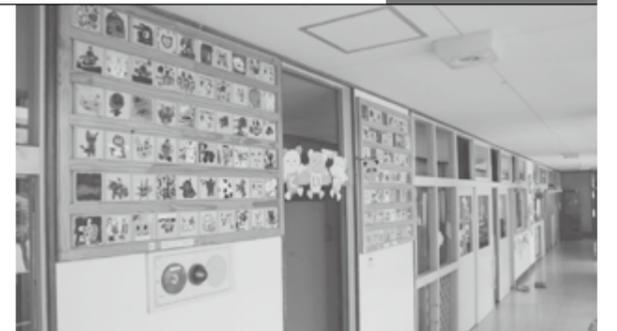
## 卒園児の思い出アートパネル みどり園保育所

REPORT ③

みどり園保育所の卒園児が描いたアートパネルボードが、9年の時をかけてこのたび完成しました。

同園の元所長川崎弘子さんが退職した際に、パネルをはめ込める記念ボードを同園に寄贈。退職した平成13年度からパネルのはめ込みが始まり、平成21年度までの9年間で、総勢106人の園児が描いたアートパネルがすべての枠にはめ込まれました。

記念ボード完成の知らせを受け駆け付けた川崎弘子さんは、「このボードを見ると昔を思い出す。完成させてくれてとてもうれしい」と感激していました。



▲廊下に飾られたアートパネルボード



## 安心安全な保育を届ける 峰田保育所乳児室が増築完了

REPORT ⑩

今年2月上旬から増築工事が進められてきた峰田保育所の乳

児室がこのほど完成し、6月1日から1～2才の園児13人が利用を始めました。

近年、1～2才児の入所が増え保育室が不足してきたことから、市が増築整備を行いました。晴れた日は給食スペースとなるテラスや風通しの良いウッドデッキなど合わせて約102平方メートルを整備。保護者や保育士の意見が取り入れられた設計は、子どもたちが快適に過ごすための細かい工夫がされています。設計からかわった椿智枝所長は、「安全面や管理面など保育し

やすい環境が整い、子どもも保育士も落ち着いた保育所生活が送れている。これからも地域の保育所として信頼されるよう努めていきたい。」と話しています。



▲新しく広くなった乳児室で楽しく過ごす子どもたち

REPORT ⑪

## 塩原のにぎわいと文化の伝承 4年に一度の塩原の大山供養田植が開催

国の重要無形民俗文化財、塩原の大山供養田植が5月30日に開催されました。

会場となった塩原の石神社前は、4年に一度の貴重な機会を見逃すまいと集まった観客で大いに賑わっていました。

行事の前に、主役となる牛たちはみやびな衣装を身にまとい「せり」を待ちます。「せり」は供養田植の5行事には含まれませんが、「しろかき」に出場する牛の順番を決める重要な行事で、一番牛に選ばれることは牛主にとって大変な名誉です。順番が決まると着物姿の早乙女たちの「田植おどり」で幕が上がります。続いて牛たちが供養棚をくぐって次々と登場します。祈祷で清められてから、水田に入り「しろかき」を行います。

牛十数頭が整然と歩く「しろかき」の光景は荘厳なものでした。

この「しろかき」に母子の牛を出場させた牛主は、2頭が晴れの舞台で大役を務めたことを嬉しそうに話していました。

その後の「太鼓田植」では、さんばい苗持(三把苗持)を小奴可小学校の児童が務め、会場に駆けつけた友人たちは、大役を務めるその姿を熱心に見学していました。



▲衣装を身にまとい「しろかき」に向かう牛

## みんなで集い心身の健康づくり 平成22年度西城まちづくり大学開校

REPORT ⑫

今年で14年目を迎えた西城まちづくり大学が5月25日、西城公民館で開校しました。「みんなで集い、共に学



び、楽しみ、心豊かにいつも笑顔で過ごせる心身の健康づくり」をテーマに、西城町に暮らす50歳以

▲講演を聴く大学生

上の方を対象にした公民館事業として開校し、講演会や社会見学、レクリエーションなどを行っています。今年は、57歳から92歳までの97人が大学生となりました。開校式に続いて講座が行われ、出席した70人の大学生は、高齢者福祉の現状と課題や家庭生活の中での健康づくりを学びました。

出席者は「年齢を重ねてからの健康づくりは、ちょっとしたことに気をつけながら、継続することが大切だと分かった」と話していました。

今後も、スポーツや市外への視察、西城紫水高校生との交流など計5回の講座を予定しています。

REPORT ⑦

## 地域の農業を語り合う 庄原と倉橋の農業青年が交流研修

庄原市ヤングファーマー(岩竹孝浩会長)と倉橋町農業青年クラブ(呉市、水場一彦会長)が6月8日、交流研修会を開催しました。

それぞれの地元で活躍する農業青年25人が東城町へ集まり、エコファーマーに認定されている2つの農園を視察。アイガモや竹炭を使うなど、安心安全なこだわりを持った農業経営に、参加者は関心を寄せていました。また、野菜を取り扱う広島市内の企業からは、流通や集荷システムなどを学びました。昼食を摂りながらの交流会では、農業の現状や将来の農業について大いに語り合いました。

今年新たに就農し、庄原市新規就農者支援施設(旧小

奴可中学校寄宿舎)に入居しながら、視察先の一つ(株)藤本農園で働いている保光瑞晃さん(川手町)は「生産の現場や流通が学べとても勉強になった。これから頑張って、先輩に認められる農業者になりたい」と将来を見据えていました。



▲農園の取り組みを熱心に学ぶ参加者

## 太鼓の鼓動に感動

### 鬼神太鼓30周年記念「太鼓ライブinT O J O」が開催

REPORT ⑧

鬼神太鼓と広島県太鼓連盟、東城町観光振興キャンペーン実行委員会が6月5日、東城町老人福祉センタ



▲迫力ある演奏を披露する鬼神太鼓

ーで、「第4回太鼓ライブinT O J O」を開催しました。

今年は、地元東城町の太鼓演奏団体鬼神太鼓のほか、さんわ子ども和太鼓(神石高原町)、口和備神太鼓(口和町)、ひばん婆太鼓(東城町)がゲストとして出演し、勇壮な「ばちさばき」を披露しました。

ライブの中では、太鼓演奏のほかドラムと尺八の共演もあり、力強く美しい演奏に、会場を訪れた約300人の観客は酔いしれました。

広島県太鼓連盟会長の今岡誠一さんは「今年は鬼神太鼓の30周年を記念したライブを行ったが、来年は太鼓ライブを始めて5回目の記念大会となる。盛大で華やかなライブを皆さんに披露したい」と次回開催の抱負を語りました。

REPORT ⑨

## 新しい小児科医に気持ち伝える 庄原の小児医療を考えるひだまりの会

庄原の小児医療を考えるひだまりの会が6月3日、庄原赤十字病院に今春新たに赴任した小児科医の河野一輝医師と本田茜医師のもとを訪ねました。母親と子ども22人で訪れたメンバーは、約1カ月かけ作成した手づくりおもちゃを贈り、会の取り組みと庄原市の小児医療に対する思いを熱く語りました。

また、2人の医師が赴任してまだ間がないので、訪れた患者さんにもっと親しみを持ってもらおうと、自己紹介を兼ねたアンケートを院内に掲示してはどうかと提案。メンバーの活動や提案を聞いた河野医師は「広島市内ではこういった活動はほとんどない」と驚いた様子でしたが、笑顔で快諾しました。

メンバーは「先生に『庄原市へ来て良かった。ずっ

と住みたい、働きたい』と思ってもらえる活動をこれからも続けていきたい」と話していました。



▲手づくりおもちゃを手渡す子ども